

干渉調査の進捗状況について

平成22年9月2日

イーモバイル(株)

(株)NTTドコモ

KDDI(株)

ソフトバンクモバイル(株)

UQコミュニケーションズ(株)

1. 干渉調査進捗状況報告

- 700/900MHz干渉調査については、700/900MHz帯アドホックグループや、検討対象システム当事者間での検討を鋭意進めている。
- 今回の干渉検討では、検討対象システムや検討する携帯電話方式が多数存在(LTE(FDD)、WiMAX(H-FDD、TDD))するため、すべての組み合わせの検討モデルを取り扱う場合、作業に膨大な時間と稼動がかかることが懸念される。そのため、検討内容が重複する検討モデルや、検討パラメータを包含できるような方式の場合は、より影響度の高いものを採用し、検討モデルを簡素化するなど、作業の迅速化を図るための対策について携帯電話事業者間で精査を行ってきた。
- その結果、携帯電話システムに関しては、検討パラメータとして、送信帯域幅が大きく、送信電力値も高いLTE(FDD)方式のものを採用することで合意している。今回は、700MHz帯、900MHz帯ともに、基地局送信、端末送信の両方向について検討する必要があるため、FDD方式の検討を行えば、TDD方式の検討を包含することが可能である。
- 上記精査を経て、現在は、検討対象システムごとの詳細検討フェーズに進んでいるところ。各システムごとの具体的な進捗状況は以下のとおり。
 - TV放送、FPU、ラジオマイク、MCA、RFID、STL
 - 各システム当事者同士による会合において、干渉検討パラメータ、検討手法、等について検討を行っているところ。MCA等、一部のシステムについては、一次検討結果の精査まで進んでいる段階である。検討手法については、基本的には、これまでの情通審で行われているような机上計算での検討を中心に行なうが、必要に応じて、実験による影響度合いの確認も検討する。
 - ITS
 - 基本的な検討は情報通信審議会ITS作業班において実施済みであるため、携帯電話小電力レピータ、陸上移動中継局について、今後検討を進める予定。
 - パーソナル無線、携帯電話
 - 過去の情報通信審議会でのパラメータ、検討手法を元に、今後検討を進める予定。

2. 今後の干渉検討作業の進め方について

- 周波数検討WGの中間とりまとめ案で提示されたスケジュールで結論を出すためには、干渉検討を更に効率化する必要があると考えられる。
- そのため、今後は、周波数検討WGで提示された周波数割当案だけを検討することでよいか？
- さらに、提示された割当案において、検討が重複すると考えられるものは割愛し、検討を効率化することでよいか？
(例えば、周波数ポイントの多少の違いによって検討結果が大きく変わらないと思われるものについては、検討を割愛する等)
- 基本的に検討すべきことは、隣接システム間の最小GB幅と、そのときの共存条件を求めることでよいか？